

## はしがき

本書は、『現代教育思想としての塩尻公明—人格主義の教育論—』（大学教育出版、1999年）、『塩尻公明—求道者・学者の生涯と思想—』（大学教育出版、2012年）に続く、私の3冊目の塩尻公明研究である。

本書では、『塩尻公明』の評伝部分のエッセンスを継承しながら、その後収集した新しい資料を基に補訂を加えた。この作業で、これまで未知であった箇所や空欄をかなり埋めるとともに、「塩尻公明著作一覧」についても、ほぼ完璧を期すことができたと思う。

私が塩尻公明に執着するのは、少しでも多くの人々に、塩尻公明の<sup>しんし</sup>真摯な生き方とそのリベラルでデモクラティックな思想とを知って欲しい、学んで欲しいと考えるからである。

塩尻公明は人間の<sup>こう</sup>業に真正面から向き合い、取っ組み合い、遂には手応えある生甲斐を獲得するとともに、類い稀な人間的成長をし、多面的で深奥な学問的偉業を成し遂げた人物である。彼の求道者・学究的教育者としての誠実な生き方は、読者をして感動せしめるに違いない。まして混迷する現代であるからこそ、彼の生き方と人格主義思想は、なお一層読者の魂を魅了し、人間が真剣に生きるということとはどういうことであるかについて賢明な示唆を与えてくれると考える。

“受取るの一手”についていえば、塩尻公明は、“ただ一つだけ、誰にでもできることがある、それは自分に与えられた一切のものをよく受け取ること、私を去ることである”と言い、それゆえに、“私たちは今直ちに、よく受取る人間、私を去る人間とならなければならない”と言っている。私自身、この言葉の深い意味を理解して、少しでも実践できればと考えている。

塩尻公明の生涯については、なお未知の点が多々ある。しかし、それらについては今後の研究で究明していきたい。彼の思想体系については、拙著『現代教育思想としての塩尻公明』を読んでいただければ幸甚である。

本書の執筆に際して、塩尻公明先生のご遺族の方々、旧制高知高等学校の卒業生有志、塩尻公明研究会の会員の方々から、厚意あふれる恩恵と情報とを受ける

ことができた。また高知大学・塩尻公明文庫から、貴重な資料を収集することができた。附録の塩尻著作文献の追加については「塩尻公明研究会」の関みさよ事務局長に、ルビ打ちについては大阪府立高津高等学校の我那覇繁子教諭に、随分お世話になった。ここに感謝の意を表させていたきたい。

終りに、出版事情の難しい時節にもかかわらず、本書の公刊を承諾くださった大学教育出版と佐藤守社長、編集でお世話になった安田愛様に、心からお礼を申し上げます。

最後に、ささやかな本書であるが、前二著と同じく、全国の過去と現在と未来の“塩尻アン”に捧げたい。

2012年10月29日

中谷 彪

(追記)

- ・研究書の体裁をとる本書では、原則として、人物の敬称を省略した。
- ・引用文中に、今日では一部配慮すべき用語が散見されるが、表記のままとした。

受取るの一手  
—— 塩尻公明評伝 ——

---

目次

はしがき ..... i

プロローグ ..... 3

- 1 塩尻公明という人 3
  - (1) 識者の見る塩尻公明像 3
  - (2) 同僚・隣人が語る塩尻公明像 4
  - (3) 教え子が語る塩尻公明像 5
- 2 塩尻公明の実像を求めて 7

第1章 備藤公明の誕生 ..... 9

- 1 備藤家と公明 9
  - (1) 備藤公明の誕生 9
  - (2) 備藤家の家族 10
- 2 塩尻家と公明 17
  - (1) 学者家系の塩尻家 17
  - (2) 塩尻家と綴長雄 17
  - (3) 塩尻家と公明 18
  - (4) 塩尻家と卯女 20

第2章 学校時代の備藤公明 ..... 24

- 1 少年期の生活 24
  - (1) 小学校時代 24
  - (2) 中学校時代 25
- 2 青年期の生活 26
  - (1) 旧制第一高等学校の時代 26
  - (2) 学友たちと河合教授との交流 33
  - (3) 東京帝国大学時代の生活 37

### 第3章 <sup>とうようりん</sup>刀葉林地獄時代の塩尻公明…………… 41

- 1 <sup>いっとうえん</sup>一燈園時代 41
  - (1) 托鉢の生活 41
  - (2) 一燈園に別れ 42
- 2 越後の田舎生活 45
  - (1) 読書と百姓の生活 45
  - (2) 越後から大阪へ 48
- 3 坐禅から受取るへ 50
  - (1) 順正寺で坐禅する 50
  - (2) 蜂屋賢喜代師に師事 52
  - (3) 受取るの一手 52

### 第4章 旧制高知高等学校時代の塩尻公明…………… 55

- 1 教職に就く 55
  - (1) 旧制高知高等学校の教授に 55
  - (2) 実力を発揮する 59
  - (3) 学問と求道の両立 61
  - (4) 彼の容貌と服装と講義原稿 65
  - (5) 如何に生くべきかを語った名講義 70
  - (6) 謙虚であった講義態度 75
  - (7) 個人主義と自由主義の擁護 77
  - (8) 勉強時間なき苦しみ 85
- 2 著作の発表 87
  - (1) 『ベンサムとコールリッジ』 87
  - (2) 『天分と愛情の問題』 88
- 3 空襲で原稿類を焼失 91
  - (1) 空襲と塩尻の行動 91
  - (2) 校長弾効騒動の先頭に立つ 94

<b>第5章 結婚と家族と病気</b> .....	103
1 40歳で結婚	103
(1) 相手は名越一枝	103
(2) 結婚を講義する	103
2 塩尻家の新しい生活	105
(1) 子どもの誕生	105
(2) 官舎での楽しい生活	105
(3) 精神的学問的自由を享受	107
3 塩尻の病気	108
(1) 健康上の異常を体験	108
(2) 子どもへの遺書	109
(3) 危険な病気との付き合い	110
(4) 闘病下での勉強	112
<b>第6章 一高教授を断って神戸大学へ異動</b> .....	114
1 第一高等学校教授招聘を断る	114
(1) 一高教授への招聘	114
(2) 一高教授就任を断る	114
(3) もし一高教授であったとしたら	115
2 塩尻人生論の展開	116
(1) 名随想文の発表	116
(2) 神戸大学へスカウトされる	118
(3) 塩尻が招聘に応じた理由	121
3 高知を去る	121
(1) 「虚無について」の真意	121
(2) 塩尻教授お別れ講演会	124

## 第7章 神戸大学時代の塩尻公明 ..... 127

- 1 傑出した教育学部長 127
  - (1) 神戸での新しい生活 127
  - (2) 4期8年の教育学部長 129
  - (3) 求道としての学部長職 132
  - (4) A級大学のA級教育学部の創設 134
  - (5) 教育学部の整備 138
  - (6) 自由で開かれた学部と教授会 144
- 2 学長候補者に推薦される 145
  - (1) 教育学部長職を終える 145
  - (2) 教育学部長職8年の総括 146
  - (3) 学長候補者に推される 147
  - (4) 教師としての喜びを享受 149

## 第8章 帝塚山大学時代の塩尻公明 ..... 155

- 1 帝塚山大学に招聘される 155
  - (1) 帝塚山大学に就職 155
  - (2) 役職と講義 156
- 2 長期の入院闘病生活 159
  - (1) 病床で結婚25周年 159
  - (2) 入院生活と本当の夫婦 160
- 3 研究と教育こそ命 162
  - (1) 執念の教壇復帰 162
  - (2) ライフワークに命をかける 163
- 4 教壇で倒れる 163
  - (1) 最後の講義 163
  - (2) 葬儀と墓碑銘 164

<b>エピソード</b> .....	166
1 求道者としての塩尻公明 — 求め続けた真実の幸福と安心立命 —	166
(1) 生き甲斐と随喜の旅路	166
(2) 求道に導いた5つの要因	166
(3) 求道者としての生涯	168
2 学者としての塩尻公明 — 求道としての学問研究 —	170
(1) 天職としての教授職	170
(2) 求道としての一四の原則	170
(3) 求道としての役職	170
(4) 「民主主義を基礎づける5つの基礎理論」への努力	171
3 教育者としての塩尻公明 — 天性の教育者 —	172
(1) 天性の教育者	172
(2) 悩める人々の北極星	172
4 塩尻公明の実像 — 人間の業と闘った人生 —	173
<b>付 録</b> .....	175
1 塩尻公明略年譜	175
2 塩尻公明著作一覧	176
<b>人名索引</b> .....	184